

荒川には遊べる公園がいっぱい

自然を活用し楽しめる、眺めの良い公園などが充実しています。



荒川沿いにある公園

荒川の公園

荒川沿川や流域にはさまざまな公園があります。荒川河川敷の広大な敷地につくられた「彩湖・道満グリーンパーク」（戸田市）や旧堤が残る「万平公園」（熊谷市）、富士山を望める展望台のある「荒川パノラマ公園」（鴻巣市）などがあります。

荒川河川敷の広大な敷地につくられた市民の憩いの場 彩湖・道満グリーンパーク

1989（平成元）年、荒川河川敷に完成した約66haの園内には、ソフトボール場、野球場、テニスコート、陸上競技場、サイクリングコース、ジョギングコースなどのスポーツ施設のほか、自然に親しめる観賞池や林があり、ブランコなどの遊具もそろっています。バーベキュー広場ではキャンプもできます。

また、公園の周りには、へら鮒釣りと金魚釣りができる道満河岸釣り場をはじめ、プロ野球のヤクルトスワローズ球場や、荒川の周りで見ることができる動植物や荒川の治水・利水について学べる「彩湖自然学習センター」などの施設も充実しており、子供から大人まで一日楽しく過ごせます。

かつて戸田は、江戸に近いことから、歴代将軍が鷹狩りを行う「戸田筋」というお鷹場としても知られてきました。当時の自然の面影は、現在も堤外の彩湖・道満グリーンパークに残されています。



彩湖・道満グリーンパーク

▶ 数本の老樹が静かに立つ、旧堤が残る唯一の公園 万平公園

万平公園には、旧堤が200mにわたって数本の老樹の桜とともに残っています。「名勝熊谷堤碑」「熊谷堤栽桜碑」も残され、熊谷地方の発展に偉業を成した竹井澹如翁の碑もあり、その偉業を顕彰しています。もともと桜の旧堤は約4kmに及び、1千本の桜が植えられ、吉野、小金井とならび桜の三大名所と称されており、1927（昭和2）年8月には内務省の「指定史蹟天然記念物」に指定されたほど。残念ながら、現在は名勝熊谷堤も指定解除となりましたが、その一部がここ万平公園に残されており、静かなお花見をしたい方にはおすすめです。旧堤の上にたって老樹をながめると、のどかな古来の人々の足音が聞こえてくるようです。



春には桜が楽しめる

▶ 長さ30mの大滑り台が圧巻 荒川パノラマ公園

高規格堤防の上に整備され、眼下に広がる荒川の流れと、富士山を望める展望台が自慢の公園です。空気が澄んだ日には、秩父連山、浅間、富士、赤木、筑波、日光連山のパノラマが目の前に広がります。長さ30mのローラー滑り台も設置されているので、尻当て用のダンボールやミニソリを忘れないで持っていきたいものです。また、サクラ、ボタン、ラベンダーなど四季の花も植栽され、家族でのんびり過ごすのもおすすめです。幼児用の遊具も充実、ベンチや休憩コーナーも清潔に整えられ、誰もが安心して遊べます。整備面積約2ha、整備延長約300m、幅約60m、缶ジュースの自動販売機、トイレ、駐車場も完備。



設備の行き届いた園内から、関東の山々が360度見渡せます

▶ 荒川の旧流路が残る 浮間公園

公園の約40%を浮間ヶ池が占め、親水公園として親しまれています。浮間ヶ池ですが、かつては荒川の本流で、1918（大正7）年から始まる荒川上流部改修工事で荒川を直線化したことにより、残った部分が浮間ヶ池の原型となりました。

池の北端には、この地が荒川のころ岸辺に生えていたアシ、マコモなど水生植物の保護区となっています。また、水鳥等多くの生物が見られ、11月中旬から下旬にかけて400～500羽のカモが飛来し、荒川と浮間ヶ池を行き来しています。



荒川の旧流路である浮間ヶ池

アクセス

万平公園（左）

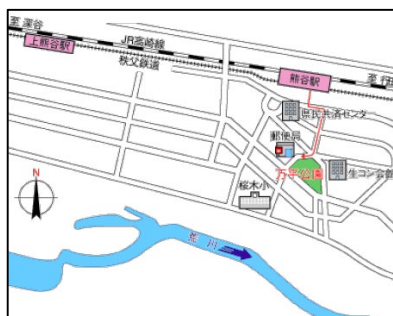
交通：JR高崎線「熊谷駅」下車、徒歩約5分

住所：埼玉県熊谷市万平町1丁目

彩湖・道満グリーンパーク（右）

交通：JR埼京線「北戸田駅」下車、国際興業バス「西川口駅」行き「彩湖・道満グリーンパーク入口」下車、徒歩約5分

住所：埼玉県戸田市大字重瀬745地



万平公園



彩湖・道満グリーンパーク